

「人間の究極（本当）の幸せ」とは？

おはようございます。

昨日は、梅若小の運動会でしたが、あいにくの雨で31日に延期になってしまいました。今回、その運動会のお手伝いのボランティアに、14名の生徒が手をあげてくれました。誰かのために役に立とうとすることは、大変素晴らしいことであり、みんなが気持ちよく幸せな気分になります。今回はかないませんでしたが、その気持ちを忘れずにいてください。

とかく人は、自分のことばかり考え、自分だけが良ければいいというわがままで自分勝手な行動を取りがちです。しかし、わがままで自分勝手な行動を通してすれればするほど、言い合いになったり喧嘩になったりします。たくさんの人が生活する学校では、決してみんなが幸せな気分になることはありません。

私は、先日、黒板に書くチョークを制作している会社で、重い心身障害を持つ人たちを社員全体の70%も雇っているという会長の話を聞く機会がありました。その話の中に、「人間の究極（本当）の幸せ」という言葉がありました。皆さんは、「人間の究極の幸せってなんだろう？」って考えたことがありますか？幸せと感じるときは「ほしいものが手に入ったとき」「自分のわがまが通ったとき」でしょうか？私も普段から「人間の幸せとはなんだろう」とゆっくり考える時間もなかったので、改めて真剣に聞き入ってしまいました。

その会長は、「人間の究極の幸せ」は4つあると言っていました。

- 一つ目は、「人に愛されること」
- 二つ目は、「人にほめられること」
- 三つ目は、「人のために役立つこと」
- 四つ目は、「人に必要とされていること」

私は、人間が「人に愛されない・人にほめられたことがない・人の役に立たない・人に必要とされない」とこの逆になってしまったら本当の不幸を知ることになってしまうと思いました。

特に、三つ目の「人のために役立つこと」は、どんな人でもどんな時でもすることができます。例えば、学習支援員の風見先生は、誰に言われた訳でもなく、毎日朝早く登校し、皆さんが気持ちよく登校できるようにと校門前の場所を掃除してくれています。前の会社で人を指導する立場にあったのでこのことが習慣になった、掃除をすることで気持ちよく一日が始められると話していました。皆さんも、自ら進んで人の役に立つことをしてみてください。教室や廊下に落ちているゴミを拾うこと、消し忘れた黒板を消すこと、困っている人を助けることなどどんな小さなことでもかまいません。みんなが、楽しく過ごせる向島中にするために、「人のために役立つこと」を考え、実行してみてください。その行動を続けていけば、いつの日か究極の幸せと感ずることができるとでしょう。